

第一回雪山講習～くじゅう～

【報告者】A山

【日時】2018年1月28日

【天候】くもり、雪

【参加者】I藤、A屋、マサ、A・K、T田、A山

《コースタイム》

9:20 長者原駐車場出発-11:20 法華院山荘にてランチと座学-13:20 法華院山荘発

-13:56 諏蛾守越避、難小屋裏にて講習-15:05 諏蛾守越避難小屋発

-15:25 大曲分岐-16:05 長者原駐車場

《報告》

入会してはじめての山行で、第一回雪山講習に参加しました。

九州以外の雪山経験がなく軽アイゼンしか持っていない私にとって、10本アイゼンやピッケル、ワカンなどのギアに触れることができた貴重な一日でした。

早朝I藤さんカーに乗せていただき、九重町へ。山道に入ると路面の積雪が徐々に増えてきて、気分も高揚してきました。長者原の駐車場で一緒になった、F谷さんやDr達アルパインのパーティーはスムーズに準備を整え、颯爽と山に入っていました。皆さんの雪山装備かっこいいなあ見とれつつ、A屋さんにお借りしたピッケルをペラペラのザックに無理



やりくりくりつけ、雨具をつけて雪のタ

デ原湿原を出発しました。雨が池をぬけ、坊ガツルまで、風も少なく気持ちの良いハイキングを楽しみました。法華院の談話室に入ってしばらくすると、徐々に天候が崩れ吹雪いてき

ました。

ここからは一時間ほど、昼食をとりながらの座学です。まずはレイヤリングの基本から。各レイヤーの特徴と山行スタイルに合わせた生地選択について、具体的な商品も教わりながら学びました。次に末端に使用する物（グローブ、靴下、帽子、サングラス）。グローブもウェアと同様レイヤリングがあり、予備が必要なことなどを学びました。

さらにアイゼンの種類（固定方法の種類、用途による刃の違い）、ワカンの取り付け方法、ワカンとアイゼンを組み合わせた使用方法、ピッケルの役割や取扱方法など、雪山に特化したギアの紹介が続き、雪山の基本的な装備を学びました。

印象的だったのはアイゼンについて講習中、皆さんのアイゼンを見せていただいたこと。田中さんのクラシックなアイゼンはいぶし銀でかっこよく、田中さんのギアへの愛着がうかがえました。A・Kさんのアイゼンは登攀用でも縦走もできる刃の短いものだそう。アイゼンひとつとってもそれぞれの山行スタイルやこだわりで個性が出るものだと知り、ギアの奥深さを垣間見たように思います。



ここで、車のトラブルで出発が別になった I 藤さんが合流し、諏蛾守越方向へ出発。誰が作ったのか、ストックを持った巨大なカオナシの雪だるまがお見送りしてくれました。ここからは座学の実践ということで、I 藤さんにお借りしたアイゼンを装着し、フラットステッピングを意識しながら進みました。

風が徐々に強くなり、北千里ヶ浜では吹雪がピークでした。サングラスをしないと顔が痛いけど、サングラスをつけると曇って見えないジレンマとの戦いでした。自転車用のサングラスはやっぱり自転車用なのですね。あまりに強い風に三俣山への予定を変更し、諏蛾守越の避難小屋裏に見つけた、吹き溜まりの急登でアイゼンワークとピッケルの練習をすることになりました。

キックステップでの登り下り、フロントポインティングでの登り下り、斜面でのスリーオクロック、ナインオクロックの基本姿勢、などなど。

新雪が多かったため、氷に刺す体験はできなかったが、雪深い急登で実践できてイメージが掴みやすかったように思いました。代わりにラッセルの真似事ができて楽しかったのですが、徐々に靴にしみてきて、低山用トレッキングシューズの限界を体感しました。



採石道路分岐を過ぎ下山中、三俣山を指して「アルパインのみんなは、あのあたりのルンゼを通過して登りに行ってるんだよ。」とA屋さんが教えてくれました。地図に書かれた登山道しか知らない私は、目からウロコでした。ベルグラという言葉も初めて聞きました。知らなかった登山の世界がどんどん広がっていきます。

反省点、雪山で自転車用のサングラスを使用しない、低山用のトレッキングシューズで雪山に行かない、山行に合わせた過不足ない装備を準備する。皆さんにとっては当たり前のことかもしれませんが、好奇心に駆られて行動しやすい私は、講習を受けてなければ無謀な山行に突っ走っていたかもしれません。

適材適所の装備を選択するのは、どのスポーツでも同じですが、体温を急速に奪う雪山で長時間活動する雪山登山は、とくにシビアに装備を選ぶ必要があることを学びました。丁寧に教えてくださった皆様、不足装備を貸してくださったI藤さん、A屋さん、ありがとうございました。